



オルダリーT4LE／取扱説明書



はじめに

オルダリーT4LEをご購入頂き誠にありがとうございます。

薪ストーブは火のおこし方・薪の種類などご自身のスタイルを見つけていくのも楽しみの一つです。より長く楽しい薪ストーブライフを送るため、この説明書を良く読み、適切にご使用ください。

この説明書には、操作・メンテナンス・保証など、今後ご使用いただくために必要なことが記載されていますので、無くさないよう大切に保管してください。

安全に、正しく使用するために

使用前に当取扱説明書をよく読んでください。当説明書はなくさないよう保管し、ストーブや燃焼に問題が生じた場合は、まずは当てはまる項目を確認してください。

- ① 乾燥した薪をご使用ください。密度が濃く、重いほど多くの熱量を得ることができます。生木や湿った薪を使用すると熱量が得られないばかりでなく、クレオソート*が発生しメンテナンスが大変になります。

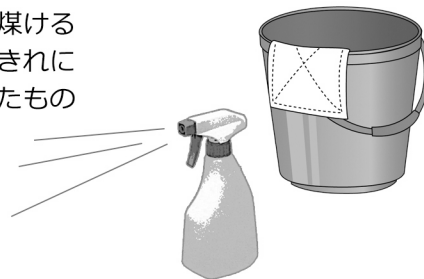
*クレオソートとは？

薪に含まれる水分やヤニが燃焼する過程で生じる液体。冷えると固体化し、煙道内や炉内に付着します。クレオソートは可燃性のため、事故を防ぐためにも定期的な煙突のメンテナンスが必要です。



- ② 灰があふれないよう必要に応じて掃除してください。灰は多少炉内に残しておいた方が着火しやすくなるため、25mm程度溜まっている状態が適切です。

- ③ 長時間にわたり低燃焼を続けた場合や湿気た薪を燃やした場合、ガラスが煤けることがあります。ストーブが冷えているときにガラス用クリーナーを使いきれにしてください。ガラスの耐熱コーティングを剥がす恐れがあるため、尖ったもので削ったり、強い研磨剤の入った薬品で擦らないでください。



- ④ 効率の良い燃焼にはストーブの密閉度が極めて重要になります。ドアガスケットが常に良好な状態が維持されているか確認し、必要に応じて交換してください。

- ⑤ ドアを閉める際はそっと閉めてください。投入した薪がガラスにぶつかることがないように、確認してから閉めましょう。ガラスは熱には強いですが、衝撃により割れたり、ひびが入ることがあります。破損の際は速やかに純正部品と交換*してください。

*ガラスの取り外し方法

ガラスは4つのネジと金具で留まっています。ネジを締めすぎるとガラスが割れることがありますのでご注意ください。熱による膨張も考慮し、きつすぎない程度に締めてください。

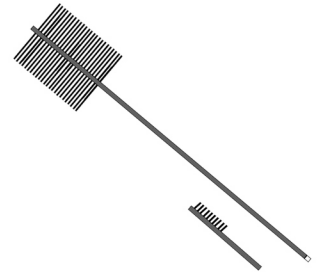
- ⑥ ストーブ周りに可燃物を置かないように注意してください。燃料用の薪はストーブに近付けすぎないように、注意して保管しましょう。
- ⑦ 湿気た薪を燃やしたり低温燃焼を続けると、炉内が燻り煤やクレオソートが発生しやすくなり、煙突が詰まりやすくなります。
- ⑧ 小さなお子様がストーブに近づかないよう十分注意して下さい。

煙道内火災を防ぐために

煙突内部で火災が発生することを煙道内火災といいます。主な原因は煙突の掃除不足で、煤やタール・クレオソートの付着、それらに火が引火することで起きます。

◆煙道内火災の予防

- ① シーズンの使用開始前に煙突を確認し、煤やクレオソートの付着、堆積がある場合はきれいに掃除しましょう。
- ② 煤やクレオソートの付着を減らすため、少なくとも1年以上乾燥させた含水率の少ない（10～18%）薪を使用してください。
- ③ プラスチックや家庭ごみ・接着剤・合板、塗料の付いている破材などは絶対燃やさないでください。
- ④ 焚きすぎ（温度の上げすぎ）に繋がるため、空気調整レバーを最大状態で燃やし続けるのは危険です。
- ⑤ 手の届く場所に消火器をご用意ください。

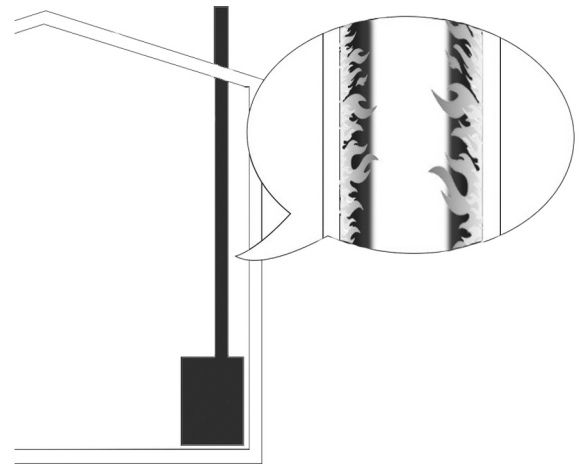


◆煙道内火災の症状

- ① 煙突内が唸るような音がする。
- ② 煙突の周囲が急に著しく熱くなったり、煙突自体が赤くなる。煙突自体が振動する。
- ③ 煙突トップから炎や火花が飛ぶ。

◆煙道内火災になったら

- ① 直ちに空気調整レバーを最小に絞ってください。
- ② 室内の窓を開けてください。
- ③ 本体に水をかけないでください。本体が損傷したり、ガラスが割れることがあります。
- ④ 火室内の薪を取り除かないでください。ドアを開けることで火室に大量の空気が入り込み、火力が増して危険です。
- ⑤ 最終的に煙突トップから炎が立ち上がり、やがて収まります。煙突が十分冷えてから、煙突に損傷がないかを十分に確認してください。煙突内部に破損・変形が見られたり、内部の断熱材がむき出しになっている場合は煙突を交換する必要があります。



操作時の注意事項

- 着火の際は、ガソリンや灯油・その他液体の揮発性燃料を使用しないでください。また、それらの燃料をストーブの近くで保管しないでください。
- 運転中はストーブ全体が熱くなりますのでご注意ください。お子様やお年寄りに十分注意し、操作の際は火傷しないよう革のグローブを使用してください。



薪の選びかた

当ストーブは自然の木を燃やすことを前提に製造されています。乾燥した硬い薪を使用するほど燃焼効率が維持でき、煙や煤・クレオソートの発生を減らすことに繋がります。

薪は地肌が露わになった状態で1年以上乾燥させたものをご使用ください。湿気た薪や乾燥期間が短く内部に水分をため込んだ薪の使用は、炉内の温度が上がらないばかりでなく、クレオソートを多く発生させます。



◆燃やしてはいけないもの

- ・塩分を含んだ薪
- ・化学処理された木材(接着剤、塗料付合板など)
- ・石炭や木炭
- ・家庭ごみやプラスチック製品
- ・液状の燃料



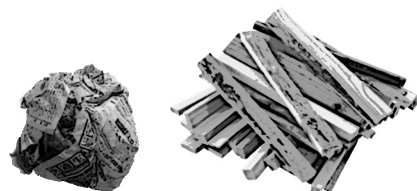
最初の火入れ

始めてストーブに火を入れる際は、慣らし焚きが必要です。最初の2～3回はストーブの温度を上げすぎないように気をつけ、火入れの際に炉に投入した薪が燃え尽きたら終了してください。

試し焚きの際は、ストーブ表面の塗装が焼けて臭いや煙が出ますので、十分換気を行ってください。

着火

- ① 空気調整レバーを最大にしてください。
- ② 丸めた新聞紙や焚きつけ材（細く切った薪）を炉の上に置いてください。その上に中程度の薪、さらにその上に太い薪を重ねます。着火剤を使用すると便利です。
- ③ 着火剤や新聞紙、焚きつけ材など着火し、ドアを閉めてください。
- ④ 薪に完全に火が入ったら、さらに大きめの薪を数本投入してください。
- ⑤ 最初に投入した薪が熾火（おきび）になったら通常運転に入ります。



通常運転

◆火力の調整

空気調整レバーで任意の火力に調整してください。火室内に煙が渦巻くようであれば、空気を絞りすぎているサインです。一度空気を多めにに取り込み、しばらく焚いてから調整し直してください。



◆薪の再投入

- ① 空気調整レバーを最大まで開き、ドアをゆっくり開けてください。
- ② 薪は薪と薪の間を空気が流れるよう置いてください。ドアを開けたとき崩れ落ちるほど高く積み上げないでください。

◆夜間の長時間燃焼

太めの薪を投入し、一度完全に火が入るまで空気調整レバーを最大まで開き、その後絞ってください。低燃焼状態が続くことで、翌朝ガラスがくもったり煤けることがあります。再び強く焚くと汚れが吹き飛びますが、それでも落ちない場合は、ストーブが冷えてからクリーナー等できれいにしてください。

◆注意点

- ・通常運転時は空気調整レバーを最大で燃やし続けしないでください。過燃焼の原因となります。
- ・通常運転中はフロントドアを閉めた状態で使用してください。フロントドアから空気を取り込むのは過燃焼の原因となるので危険です
- ・バッフルや炉内をはじめ、ストーブ各パーツに改造、改良を加えないでください。保証が無効になるばかりでなく、異常燃焼の原因になり非常に危険です。

再着火・夜間燃焼後の着火

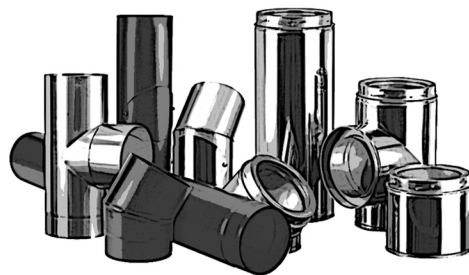
- ① ドアを開き、炉内の炭や残り木をかきまぜて中央に集め、その上に数本の薪を載せてください。
- ② 空気調整レバーを最大に開き、重ねた薪に火が入るのを待ちます。
- ③ 薪に完全に火が入ったあと、空気調整レバーで任意の火力に調整してください。
- ④ 着火時や再着火時以外は、空気調整レバーを最大にした状態で常に燃やし続けることは避けてください。

ドラフト

薪ストーブの動力は煙突のドラフト（煙突内部で自然発生する上昇気流）です。ドラフトが弱いとストーブはうまく燃えません。ドラフトは煙突設置の設計や長さ、周辺環境・気候・天候にも左右されます。

逆に煙突が長めの場合はドラフトが良すぎる（強すぎる）ことがあり、空気調整レバーによる調整ができず、過燃焼になる場合があります。

ドラフトの問題はストーブ本体で解決できる問題ではないため、ご購入先のストーブ販売店にご相談ください。



灰の処理

炉内の灰は、適度に灰入れ専用の不燃性バケツに移してください。灰の処理はストーブや炉内が冷えてから行なってください。

熾火を維持しやすく着火も楽になるため、灰は完全に取り除くのではなく2～3cmほど炉内に残しておきます。



炉内の灰落とし

灰落としのレバーが本体下、左側にあります。

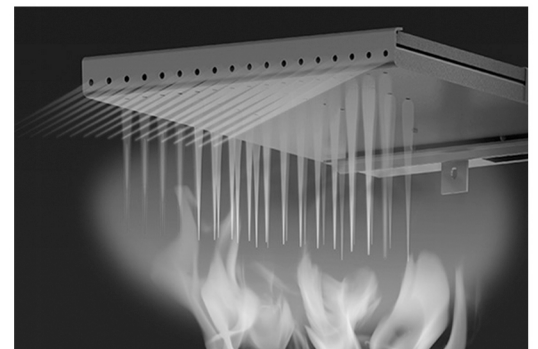
- ① レバーを一度手前に引いてから時計回りに回すと炉内下部の蓋が開きます。
- ② その状態を維持したまま、灰を下に落としてください。
- ③ 手を放すと自動的に蓋が閉まります。レバーを押し込んでロックしてください。

* 灰受け皿がいっぱいになったら、しっかり蓋が閉まる不燃材でできた容器に移してください。容器は不燃材で仕上げた床の上に置いて保管してください。

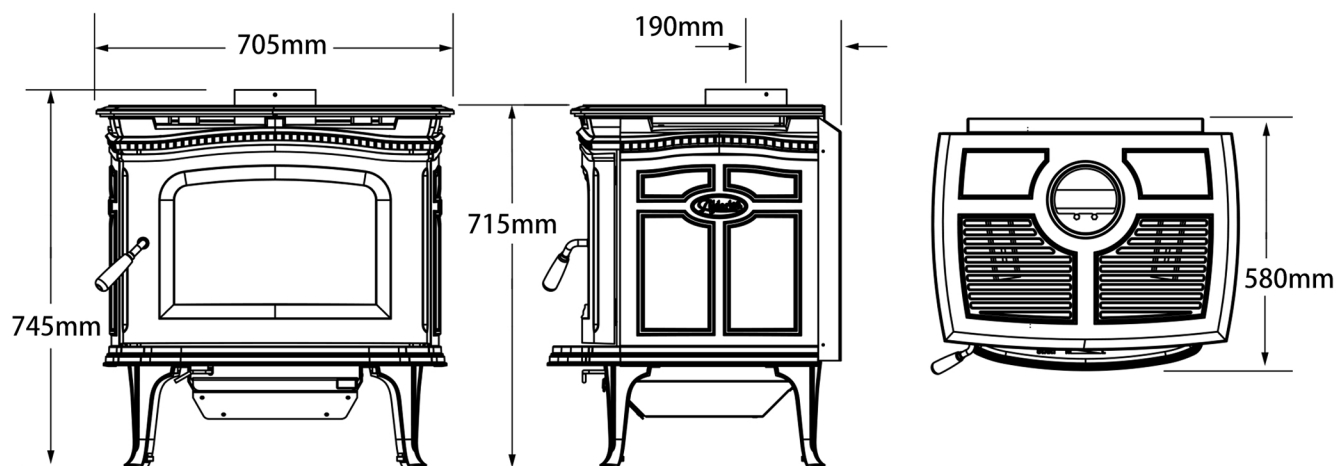
* 灰の処理は、ストーブや灰が十分冷えている状態で行なってください。

バッフルの取り外し方

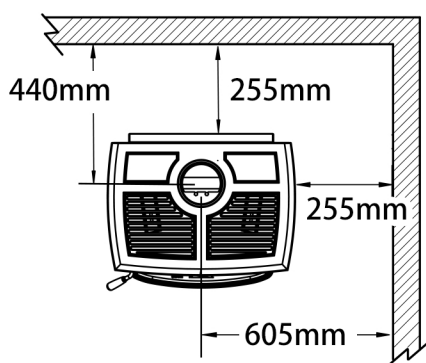
- ① 火室内後部、バッフル下側にあるピンを外してください。
- ② バッフルを持ち上げ、どちらかに傾けレールから外し、炉内から引き出します。
- ③ ガasketがへたっている場合は付け替えてください。
- ④ 逆の手順でバッフルを元に戻してください。



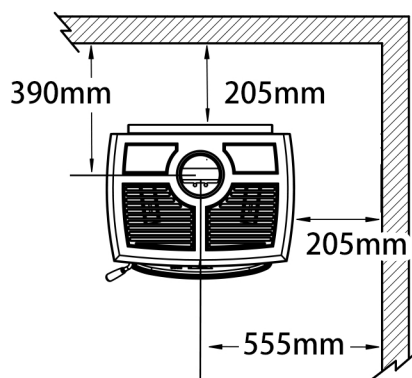
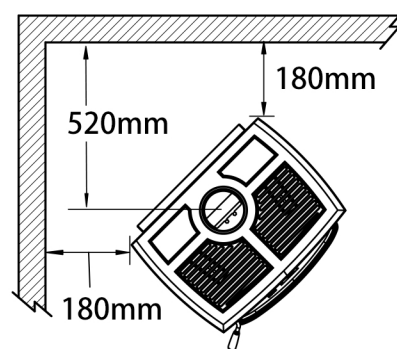
寸法図



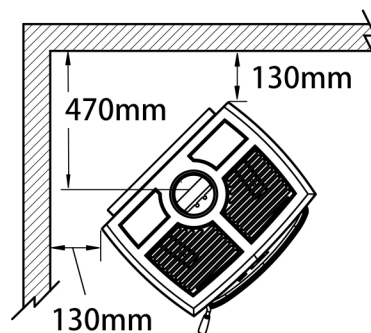
離隔距離



炉壁なしの場合



炉壁ありの場合



- * 熱伝導を防ぐため、壁と炉壁の間には25mm以上の空気層を設けてください。
- * ストープ前方は可燃物まで900mm以上離してください。
- * 炉壁から450mm以下の距離でシングル煙突を用いる場合は、パイプヒートシールドを設けてください。

負圧と外気導入

高気密住宅の場合、給気よりも排気の割合が大きくなりやすい傾向にあります。そうすると屋外よりも室内の方が気圧が低くなる「負圧」の状態になる可能性があります。

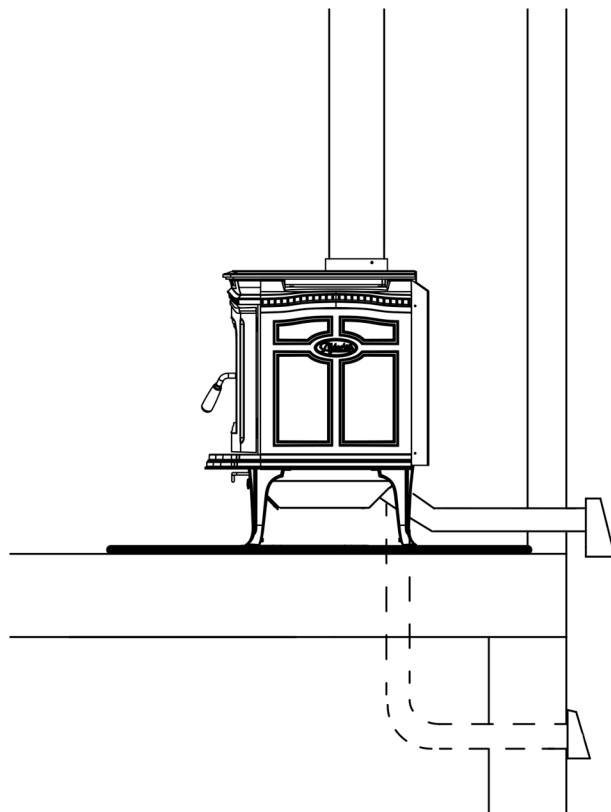
空気は気圧は高い方から低い方へ流れる性質があるため、負圧になると、足りない空気を引き込もうという働きが生じ、煙突が一時的に給気口の役割を果たして煙の逆流が起きることがあります。

ストーブが燃えにくくなったり、煙が逆流して室内に煙が漏れることがあります。ストーブ付近の窓を開けるとすぐに解消されます。

一般的な住宅に比べ負圧になりやすい高気密住宅では、この可能性を低減するため、ストーブ燃焼用の空気を外から直接取り込むのが外気導入です。

外気導入は、ダクトを直接ストーブ後方の壁に貫く方法と、一度床下に貫いてから外壁を貫く方法があります。外壁のカバーは風や雨水が入り込みにくいフード付きや埃が入りにくい網付きのものがおすすめです。

外気導入は「負圧」に対する予防策であり、解決策ではありません。ストーブ燃焼中は定期的に部屋を換気するようにしてください。

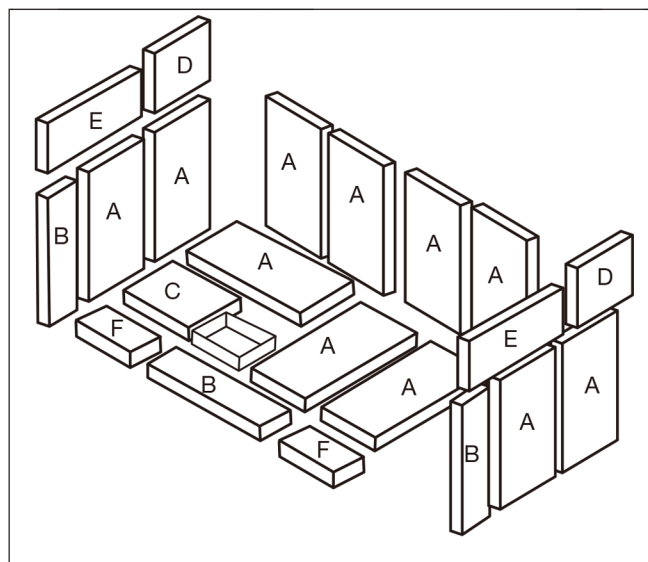


レンガの設置順序

- ① 炉内正面のレンガをはめ込みます。
(A×4枚)
- ② 炉内両サイドのレンガをはめ込みます。
(A×各2枚、B×各1枚、D×各1枚、E×各1枚)
- ③ 炉内底面のレンガをはめ込みます。
(A×3枚、B×1枚、C×1枚、F×2枚)

◆レンガ寸法 (mm)

- A 229 × 114 × 32
- B 229 × 54 × 32
- C 146 × 114 × 32
- D 111 × 82 × 32
- E 178 × 82 × 32
- F 107 × 54 × 32



トラブルシューティング

◆症状：ガラスが汚れる

<原因>

- ① 薪が湿っている →
- ② 空気を絞るのが早い →
- ③ ドラフトが弱い →

<対策、対応>

- ・乾いた薪を使用してください。
- ・薪に火が入り十分に熾火状態になるまで、空気を絞らないでください。
- ・煙突が詰まっている場合は煙突掃除を実施してください。
- ・高気密住宅の場合は外気導入を行なってください。
- ・上記で解決しない場合は、煙突の設計や高さが関係している可能性があるため、ご購入先のストーブ販売店にご相談ください。
- ④ ドアからの煙漏れ →
 - ・ガスケットを交換してください
 - ・ドアの閉まり具合（ラッチ部分）に異常がないか確認してください。

◆症状：暖かにならない

<原因>

- ① 薪が湿っている →
- ② 火が小さい →
- ③ ドラフトが弱い →

<対策、対応>

- ・乾いた薪を使用してください。
- ・薪を足し、火力を強めてください。
- ・煙突が詰まっている場合は煙突掃除を実施してください。

◆症状：夜間燃焼時にすぐ燃え尽きてしまう

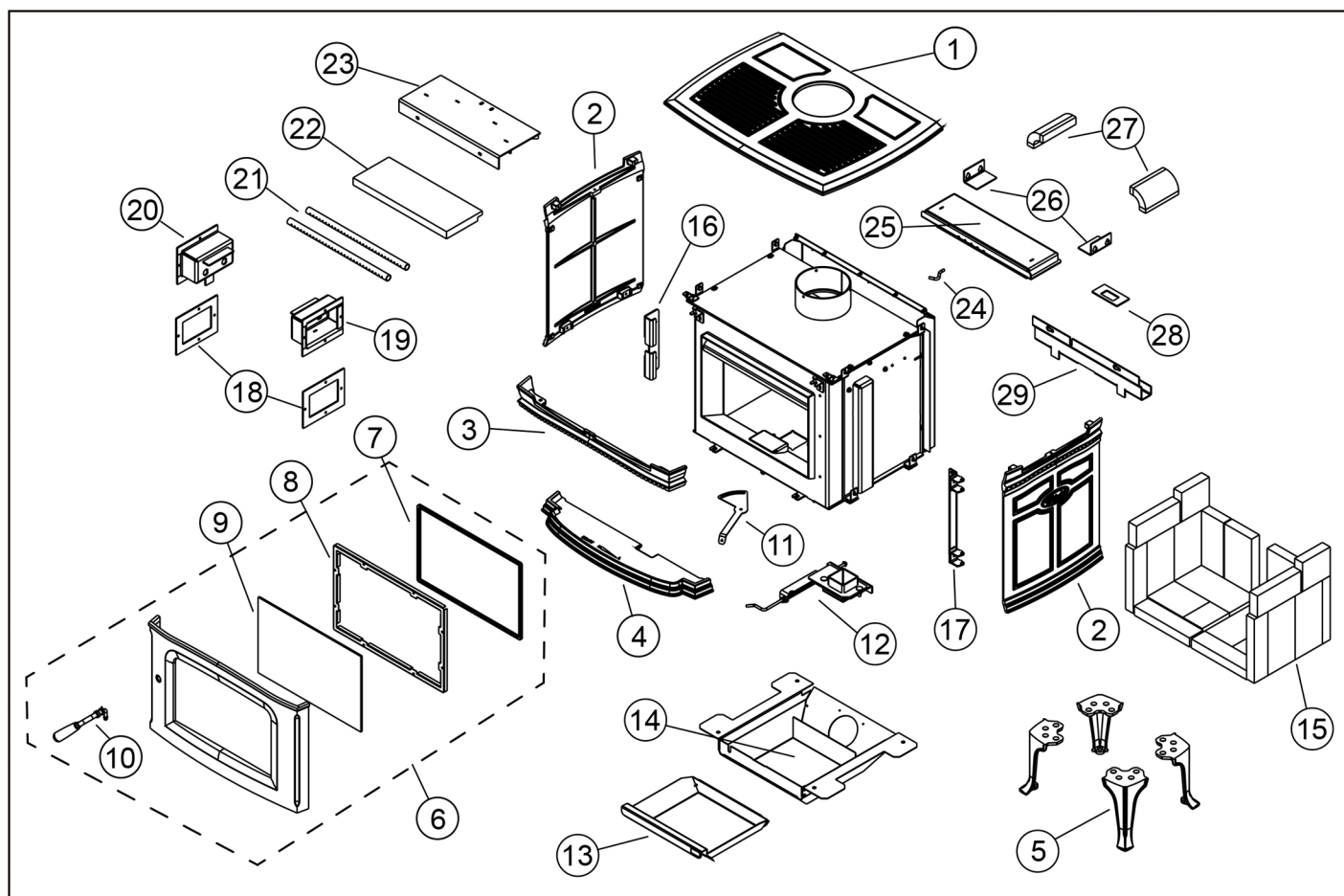
<原因>

- ① エアー供給量が多い →
- ② 薪の量が少ない →
- ③ ドラフトが強すぎる →
- ④ 長持ちしない薪を使用している →

<対策、対応>

- ・空気調整レバーを最小に絞ってください。
- ・なるべく大きな薪を可能な限りたくさん投入してください。
- ・煙突が長すぎる可能性がありますので、販売店にご相談下さい。
- ・長時間燃焼を維持するには、広葉樹などなるべく密度の高い薪を使用してください。

部品図



No	品名	No	品名
1	天板	16	ドアカム受け
2	サイドパネル（左右セット）	17	ドアヒンジ
3	ドアクラウン	18	エアーチューブBOX用ガスケット
4	アッシュリップ	19	エアーチューブBOX／右
5	レッグ（4本セット）	20	エアーチューブBOX／左
6	フロントドア アッセンブリー	21	エアーチューブ（2本セット）
7	フロントドア用ガスケット	22	バッフルボード
8	ガラスリテイナー	23	フレームシールド
9	ドアガラス（ガラスガスケット付き）	24	バッフルピン
10	ドアハンドル	25	バッフルBOX
11	空気調整レバー	26	ブリックレール／サイド（左右セット）
12	アッシュダンパー	27	バッフルブランケット（左右セット）
13	灰受け皿	28	バッフルチューブ用ガスケット
14	ロアーカバー	29	ブリックレール／リア
15	耐火レンガ（セット）	30	エアーディフレクター／リア

保証について

ご購入後はご使用前に製品の状態をよく確認してください。内容をご確認の上、必要の際はご購入先の販売店へお問合せください。

◆保証期間

- ・お買い上げ日より1年間

◆保証対象

- ・本体パネルの割れ、ひび
- ・燃焼システム部材
- ・エアーコントロールシステム
- ・ドアフレーム、ドアハンドル、ラッチ部材

◆保証対象外

- ・耐火レンガ
- ・耐熱フロントドアガラス
- ・ガスカート

◆保証条件・保証対象外の定義

- ① 保証対象のストーブは、弊社を通して日本に輸入され、専門知識を有したパシフィックエナジー販売店によって設置されたものに限りします。
- ② 弊社発行の保証書（別紙）を紛失した場合は保証の対象外となります。
- ③ 当説明書の設置・操作・メンテナンス条項に従ってご使用頂いている事が条件となります。
- ④ 当説明書にない使用方法によって起きた不具合、あるいは改造が加えられた場合は保証の対象にはなりません。
- ⑤ 当保証書を他人に移譲することはできません。パシフィックエナジー販売店より直接ご購入された方のみが対象となります。
- ⑥ 多少の塗装ムラや変色、パネルの歪みや組み合わせのズレ、あるいはそれらに起因する異音は、製品の特性上発生し得ることであり不具合ではありません。保証の対象外となります。
- ⑦ 誤った使用による不具合は保証の対象外となります。誤った使用とは、過燃焼（温度の上げすぎ）・塩分を含んだ薪の使用・接着剤や塗料など化学物質を含んだ薪の使用・木材以外の燃料の使用を含みます。
- ⑧ 海岸部など塩分を含みやすい環境や極端に湿度の高い環境では、腐食の可能性があります。材質の耐腐食性の限界を超える環境下でのご使用による不具合は保証の対象外となります。
- ⑨ シリアルナンバーのプレートが剥がれていたり、ナンバーに不正に手が加えられた場合は、保証の対象外となります。

PACIFIC ENERGY 日本正規総輸入元

＜事業本部・東京九段ショールーム＞

GREENHOOD（グリーンフッド）

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-3 1F
TEL 03-6261-3884 / FAX 03-6261-3885

＜青森ショールーム＞

WoodHood（ウッドフッド）

〒031-0031 青森県八戸市大字番町1-1
TEL 0178-43-3061 / FAX 0178-43-3037